

千年のときが
私のなかで
流れはじめ

まるで木のふりをした壁みたい。それほどに大きな木である。

この木には、千年の時間が詰まっている。

木と向かい合って、ゆっくりと、息を吸って、吐く。

私のなかに千年が流れこむ。

千年前も、たしかにこうして風が吹き、鳥が鳴き、

葉のあいだから日射しが落ちて、澄んだ水が流れていた。

千年の先に私がいる。そのことがちっとも不思議ではなくなる。

今日、私がここに立つことも、

きつと千年前から決まっていたこと。

やっときたね、ときさやく声が聞こえた気がした。

作家

岡田光行

ストーリーのあるまち

香美町

たしま高原植物園「和池の大カツラ」

